

## 予科練平和記念館だより

平成22年2月開館



予科練平和記念館整備推進室では、予科練や海軍、町の歴史に関する資料、体験談などを収集しています。ご存じの方はぜひご一報ください

さわやかな風の冷たさに、さまざまな秋の楽しみ

を予感する季節になりました。10月は神々がいつせいに  
出雲に集まるため、「神無月」といわれるのだという説があります。そのため出雲では逆に「神有月」といわれるのだとか。日本には八百万の神がいらっしゃるとされていますので、この時期の出雲は、たくさんさんの神様でさぞにぎやかなことでしょう。久しぶりに会う神様仲間と近況報告をしたり、それぞれのお国自慢をしたりして、澄んだ秋空のもとで、出雲名物でも食べながら話に花を咲かせていたりするのかな、と想像する今日のごころ、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

今月号は、予科練平和記念館事業を支えてきた人たちをご紹介します。

### ●歴史を集める——資料収集委員

予科練平和記念館は建物の建築がほぼ終わり、展示に関する工事がはじまりました。展示室の中には、予科練（海軍飛行予科練習生）や戦時下の暮らしに関する貴重な資料が展示される予定ですが、これらを収集してきたのが「予科練平和記念館資料収集委員」の5人です。平成14年から資料収集をはじめ今年度8年目、約1万点の資料が全国から集まりました。彼らは毎週1回中央公民館に集まって、資料の整理や調査研究をしています。委員を簡単に紹介すると：

赤堀好夫さん（73）は静岡県出身の元自衛官で、町の歴史にくわしく、空襲やツエッペリン伯号のことに詳しく、研究熱心で文才があり、冊子を作ったり講演をしたりと多方面で活躍なさっています。お話が上手で、収集委員のムードメーカーでもあります。

井元潔さん（73）は旧満州に生まれ、戦後引き揚げを経験されました。元自衛官で部下をまとめる立場にあった人だけに、人には穏やかで、自分は一倍仕事をするという理想の上司タイプです。パソコンを使いこなし、趣味も多

彩で、自分で車を運転してどこへでも行ける行動派です。戸張礼記さん（80）は、元予科練習生で、戦後は教師となつて、町内の小中学校でたくさんさんの生徒たちを導いてきました。資料収集委員となつてからも、収集活動をしながら、ご自身の体験をいろんな人たちに話して、多くの人に戦争や平和について伝える活動をなさっています。

本間尚衛さん（84）は、戦時中海軍にて勤務され、戦後は自衛官として不発弾処理に携わっていらつしやいました。資料や情報の分析、研究が得意で、本間さんの知らないことはないのでないかと思うほど物知りです。動きもスマートで、さすが鍛えられた人は違うな、という感じがします。

糸賀富士夫さん（62）は、町の職員として長く勤務し、定年後に資料収集委員となりました。グループの中で一番若手なので、ほかの委員をサポートしながら活動をスムーズにしてくださいます。また、本を読んだり講演を聞きにいたり、日々知識の幅を広げていらつしやいます。

このほかに、平成20年度まで委員として活躍なさつていた八木司郎さん（72）も、欠かすことのできない人です。独学で習得したパソコンの技術を駆使して、収集した資料のデータ管理をなさつていました。現在の収集資料の分類方法やデータの形式は、八木さんが作られたものに基づいています。今もさまざまな方面で委員の活動をサポートしてくださいます。

資料収集委員は、収集活動とともに研究の成果を本にまとめてきました。平成14年に発行された『阿見と予科練』そして人々のものがたり』は、阿見の歴史と予科練の関わりを、たくさんさんの証言を交えてわかりやすくまとめた本で、多くの人に読まれています。今年に新たに、『続 阿見と予科練』と、子ども向けに予科練を紹介した『予科練ものがたり』を刊行する予定です。見かけたときには、ぜひお手にとつて読んでみてください。皆さんの知らない阿見の歴史がわかるかもしれません。

最後に委員の一句。「予科練の歴史を語る記念館 建ては我等の任務ぞな」。彼らの思いが詰まった予科練平和記念館は、日々完成に向かっていきます。皆さん、いつまでもお元気で活躍ください。



▲陸上自衛隊武器学校にて。左から井元さん、戸張さん、本間さん、赤堀さん、糸賀さん